

満月の裏側

松浦のり子

きみは

何故

太陽の応えばかりを

伺っている

きみも

ぼくも

ただ在るものだ

是もなく

非もなく

光と闇のあいだに

ただ在る

影だ

きみが

みようとしない

きみの背中を

ぼくは

ただ

みている

ぼくにはみえない

ぼくの背中をみるように